

留学体験記

東南大学（中国）

国際文化交流学部国際文化交流学科 林空音

留学期間：2023年10月～2024年2月

中国で五か月間の留学を経験した。留学中、戸惑うことが多かったが、それ以上にずっとわくわくしていた。

中国についてすぐ、何をするのが正解なのかわからなかった。見るものがすべて新鮮だったため、積極的に歩いたり、食べたことないものを食べたりした。最初の頃だとすべてが初めてで、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦できる。もし失敗してもあまりショックに感じない。あえて普段選ばない選択をして知っているものを増やしていった。

語学においては、本場の速さや独特な癖に耳が慣れず、店員さんの言っている言葉が理解できなかった。私は、中国語が専門の学部ではないし、週に2コマ授業があるくらいではあったが、2年半は中国語学習をしていたのにもかかわらず、あまりの聴き取れなさに驚いた。途端に自信がなくなり、QRコードで注文する形式の店に頻繁に行くようになった。中国の多くの店でQRコードが取り入れられているため、種類が少なく困ることはなかったがこのままでは中国にきた意味がないのではないかと思い徐々に対面で注文する店にも行くようになった。思うようにコミュニケーションがとれなかったとしても理解してくれようとしたり、もっとわかりやすく伝えてくれようとしたりする国民の温かさを肌で感じた。

授業が始まって私は、始めレベルが一番上のクラスに配属された。少し前に実施したテストの点数がよかったためだ。クラスメートのほとんどが日常会話は難なくこなせるように見えた。私はこのような状況であると委縮してしまいリラックスして学ぶことができないと思った。そのため先生に相談して一つレベルを落としたクラスに変えてもらった。

授業は、基本中国語で行われ時々英語も用いられる。初めは先生の言っていることが聞き取りにくいだが、毎回授業に出席することで耳が慣れてきて分かる語が増えていくのがうれしかった。

中国人の友人を作るために、日本語サークルに参加したり、クラスの友達の友達と知り合ったり自分から行動しなければ機会はほぼなかった。私は、参加できる場所は足を伸ばして参加したが、思うように交流が続かなかったように思う。そのため、中国人の友人も多いとは言えない。しかし、クラスメートと異文化交流ができて、一緒に遊びに行くことができ、日本人ではない人と初めて深くかかわり小さな驚きがいくつもあった。

中国留学は自分にとってかけがえのない経験の一つになった。

